

各 位

浦安鐵鋼団地協同組合  
景況実感調査委員会

浦安鐵鋼団地景況実感調査結果表  
(2024年5月分)

ご協力ありがとうございました。2024年5月分の結果をお送りいたします。よろしくご査収ください。

調査対象 142 回答 136社 回答率 95.8%

調査項目	前 年 同 月 比					計
	10%以上 増加・上昇・好況	やや 増加・上昇・好況	横這い・平常	やや 減少・下降・不況	10%以上 減少・下降・不況	
売上数量	16社	16社	42社	38社	23社	135社
	11.9%	11.9%	31.1%	28.1%	17.0%	
	(8.7)	(16.7)	(37.7)	(22.5)	(14.5)	
売上高	15社	21社	41社	37社	23社	137社
	10.9%	15.3%	29.9%	27.0%	16.8%	
	(9.4)	(18.7)	(36.7)	(19.4)	(15.8)	
在庫数量	9社	19社	68社	24社	10社	130社
	6.9%	14.6%	52.3%	18.5%	7.7%	
	(6.0)	(21.6)	(44.0)	(14.9)	(13.4)	
販売単価	4社	31社	78社	20社	1社	134社
	3.0%	23.1%	58.2%	14.9%	0.7%	
	(3.6)	(19.7)	(54.7)	(19.0)	(2.9)	
収益状況 (粗利)	8社	22社	54社	34社	18社	136社
	5.9%	16.2%	39.7%	25.0%	13.2%	
	(8.7)	(14.5)	(40.6)	(24.6)	(11.6)	
稼働率 (生産・加工設備)	4社	14社	57社	30社	12社	117社
	3.4%	12.0%	48.7%	25.6%	10.3%	
	(4.9)	(15.6)	(49.2)	(20.5)	(9.8)	
入在庫の トラック台数	5社	13社	68社	32社	14社	132社
	3.8%	9.8%	51.5%	24.2%	10.6%	
	(3.7)	(12.5)	(51.5)	(22.8)	(9.6)	
現在の 景況感	0社	8社	48社	50社	28社	134社
	0.0%	6.0%	35.8%	37.3%	20.9%	
	(0.0)	(5.8)	(40.9)	(30.7)	(22.6)	
3ヶ月後の 景況予測	0社	15社	96社	20社	3社	134社
	0.0%	11.2%	71.6%	14.9%	2.2%	
	(0.0)	(8.0)	(75.9)	(13.9)	(2.2)	
特記事項						

- 注 ①調査対象会社数は浦安に事業所の無い会社（不在地主など）は除外してあります  
②( )内の数字は前月のパーセントです  
③結果表は全品種の動向として集計し、品種別の要因を取り上げる必要がある場合は  
特記事項欄に別途記載いたします  
④本調査の宛先等の変更は、浦安鐵鋼団地協同組合事務局までご連絡ください  
事務局 TEL : 047-350-5311 FAX : 047-350-5316

# 景況実感調査(2024年5月)特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

【お断り】寄せられたコメントは、各社担当者の現場の声です。個々の会社固有の状況にもとづくものも多々あります。業界全体及び浦安鉄鋼団地全体の見解とは必ずしも一致しませんので、お含み置き願います。また、不穏当な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

## 薄板・表面処理鋼板

- ① 需要停滞継続。まだまだ先は見えない状況。値上げについては、上がるだろうと考えていた輸入材が上がるどころか先安感まで漂ってきた。非常にまずい状況。
- ② 需要がないからと言い訳をして在庫を安く売ろうとする動きがあるが、安くしても量が増える訳ではないと思う。運賃、人件費などすべてのコストが上がっているのに、価格を下げて自らの首を絞めるのは慎む時だと思う。
- ③ 5月の加工量は前年同期比、前月比ともに減少となり、世界経済減速と国内の人手不足による工期遅れなどが影響した模様だ。足元では自動車メーカーによる不正など、良い話が無く厳しい状況が続くと思われる。そんななか、物価上昇の価格転嫁は急務の課題だ。
- ④ 4月に引き続き荷動きは低調。GW明け後も状況は変わらず、下旬になり少し動いた。細かく短納期でバタついた程度で売上は厳しい。
- ⑤ 自動車不正問題のあおりを受けないか心配である。変な玉が流れてくると相場下落や値上げがより厳しくなる。

## 中板

- ① 中板は依然として末端の需要が低調。直近まで市況は横這いとしていたものの、足元は弱含みと考える。先々の需要の回復が不透明であることから、回復には時間を要すると思われる。

## 厚板

- ① 当社では、前月に比べると若干数量、売上が戻った。切板の受注は引き続き低調に推移している。秋ごろの仕事の話は出て来るが、直近の仕事の話が少ない。
- ② 建設機械は減産の機種も出て来ている。店売り関連は人手不足の影響や運賃の値上げもあり、なかなか売上が伸びない。
- ③ <全体感>厚板需要の低迷は継続、各分野で盛り上がりは見られない。切板需要が停滞。在庫も減らない中で材料手配への意欲は低い、もしくは調整局面となっている。一方、鋼材メーカー各社の定修なども予定されている中で、ある程度先を見た材料調達が必要にもなっている。<分野別>建設機械においては輸出を中心とした販売状況が芳しくなく、在庫圧縮に向けた減産が発表され、足元からその影響が出始めている。産業機械も同様、完成品在庫だけでなく、すでに部品調達済みの仕掛在庫も含めての調整となり、生産台数以上のインパクトが予想される。店売り分野においては、上記の通り各分野において需要が低迷しており、荷動きは総じて低調。

## — 舟安开形鋼岡 ・ I-I 开形鋼岡

- ① 本年2月以降の各調査項目は総じてほぼ横這い。3月のメーカーの値上げ表明は一部の品種に観られるものの具現化していない。ひとえに需要の無さに尽きる。更に、メーカーの型式指定認証不正問題で景気は悪化する(と言われている)。その意味で3か月後の景況予測はやや好転する。
- ② 24年物流問題について、当初想定から追加制約や、それに伴う荷役等の業務効率改善など流通コストの上昇は未だ計り知れず、運賃コストは地域によっては従来の倍相当となりそうだ。条鋼品のみならず、国内需要に迫力が無いことはマーケットでも想定済みであり、業界としてこの社会的コスト増に立ち向かうべきだと考える。
- ③ 人手不足で現場がスムーズに進んでいない。どこの現場でも遅れが生じている。原材料のコストアップ、人件費のアップで大変だ。

## 異形棒鋼

- ① 5月も低調で前年並みであった。在庫の荷動きも不振。中小物件は少なく、契約残も少ないことから需要の減を肌で感じている。無理せず、市況維持にて採算を確保して行きたい。

## 平鋼

- ① メーカー値上げのため仮需が多少出たが、物件が少なく先行き不透明。
- ② 5月の売上は、値上げ前の仮需が多少出て、GWがあつたにも関わらず前月比で微増の結果となった。社内加工の状況も5月中旬から下旬に大型案件が集中したので数字が伸びた。価格転嫁については、客先へ訪問して丁寧に説明し、理解を頂いての実行となった。ただ、6月以降の社内加工は5月に比べて入っていないので、営業をかけて取りこぼしが無いようにしていく。

## 鋼管

- ① 前年に比べて直近3カ月では売上、数量共に増加したが収益は悪く、市況上伸も遅れている。需要が悪い中での値上げに苦労している。
- ② 値上げの影響が大きい。物件の稼働状況が悪い。
- ③ 首都圏の大型物件の遅れの影響を受けてガス管、塗装管ともに引取(出庫)のペースも期待以下で、低調であった。とくに管材製品の集荷量は直近3年内でワーストであった。7月から各メーカーが値上げ(再)を表明しているが、流通筋の仮需は5月には全くない。

## 構造用鋼

- ① 需要は、自動車関連は底堅い動きだが建機、産機、工作機械などは低水準の状況。回復の兆しは見られない。在庫は荷動きが悪く、やや多め。価格は概ね横這い基調だが、メーカー値上げ分や流通コストの上昇分を、市場環境が悪いなか6月より価格改定の実施をする見込み。

## その他

<異形バーインコイル・ナマシ鉄線>

- ① 母材メーカー、伸鉄メーカーからの値上げ要請はあるが、今の状況下では価格転嫁がスムーズにいったいない。梅雨時期に入る今後も明るい兆しが見えない。

<鉄スクラップ>

- ① スクラップの発生は依然として低調で荷動きは止まっている。現状の日本のスクラップ価格には割高感があり、海外からのオファーも消極的。国内メーカーのスクラップ使用量も盛り上がりには欠けていて、プラス要因はない。

<金属表面処理>

- ① 4月までは良かったが、5月に入った途端に急ブレーキ。しばらく定時間操業となる見込み。